

## 日本労働年鑑 第54集 1984年版

The Labour Year Book of Japan 1984

## 第二部 労働運動

## VII 公害反対闘争

## 概要

一、「環境白書」は、環境の現状について、「全般的には改善を示してきている」としているが、公害・環境破壊の現状は、依然として深刻である。とりわけ、二酸化窒素、浮遊粒子状物質などによる大気汚染公害、騒音公害、水質汚染公害、土壌汚染公害など被害が増大し、水俣病などの被害者救済はすすんでいない。

一、これにたいし、公害・環境行政は、環境アセスメント法案の骨抜き化と国会審議たな上げ、公害健康被害補償法の見直しなど、後退につぐ後退をかさねている。

一、臨調最終答申のなかでは、公害健康被害補償法の見直しなど、公害・環境行政に重大な関連をもつ部分があり、公害対策切り捨てのうごきに拍車をかけている。この答申が出されるまで、公害被害者による臨調や経団連にたいするたたかいがとりくまれ、それが一定の成果をおさめた。

一、環境週間・第八回全国公害被害者総行動デーは、「公害根絶と平和を求めて」をメインテーマにしておこなわれた。公害根絶のほか最大の環境破壊である戦争を絶滅することも被害者の共通の願いとなった。また、臨調と公害問題とのかかわりも浮き彫りにされた。

一、食品公害カネミ闘争では、カネミ油症第一陣控訴審が福岡高裁で一九八三年三月に結審し、国の加害責任を明確にさせるたたかいがおこなわれている。総評、公害弁連などにより、カネミ闘争支援の「カネミ全国支援会議」が一九八三年一月に結成され、そのもとで厚生省や福岡高裁にたいする要請署名運動や交渉などがなされている。また、食生活の安全に重大なかかわりをもつ食品添加物の規制緩和が厚生省によってなされたが、消費者団体を中心に、反対運動が組織されている。

一、薬害スモン闘争では、スモン訴訟は、全原告の九三%が和解により解決し、全面解決まであと一歩のところまできている。

一、薬害問題では、「日本ケミファ」がねつ造データで新薬の製造承認申請をしていたことが明るみに出て、社会問題となった。薬害スモン事件の教訓がいまだに生かされていないことも明らかになった。

一、水質汚染公害闘争では、きれいな水といのちを守る合成洗剤追放運動が広がっている。これは、たんに合成洗剤を追放するというだけでなく、すべての生態系・環境を守るという運動に発展してきた。多摩川の清流をとりもどすたたかいや瀬戸内の環境を守るたたかいなど、各地で水質汚染公害とたたかり運動が広がっている。

一、水俣病問題はいっこうに解決されていない。「水俣病問題の解決なくしては、日本の環境問題の解決も前進もありえない」(第四回日本環境会議・水俣宣言)と指摘されながら、解決は行き詰まりをみせている。その最大の理由は行政の姿勢にある。日弁連は、水俣病の被害、環境破壊の現状

と問題点を明らかにし、提言をおこなうため、一九八二年一〇月、「水俣よみがえれ」と題する水俣病実態調査報告書を発表した。第四回日本環境会議は、一九八三年四月に水俣病問題を中心テーマにして、地元水俣市で開催され、「被害者の即時全面救済」を強く訴えた「水俣宣言」を採択し、八項目にわたる具体的な提言をした。

一、大阪空港公害訴訟は、一九八一年の最高裁判決を受けて、一九八三年五月から、大阪地裁において、和解交渉に入った。「午後九時以降の飛行禁止」を和解条項に明文化するかどうかが最大の焦点になっているが、この大型裁判は全面解決へ向け一歩を踏み出した。

一、名古屋新幹線公害訴訟は控訴審で審理が順調にすすんでいるが、その現場検証の当日、国労、動労が原告団の要請を受けて減速闘争をしたことにたいし、国鉄当局は組合員を処分した。これにたいし、国労や原告団、住民などから抗議が広がっている。

一、米軍機と自衛隊機による騒音に苦しむ住民が提起した厚木基地公害訴訟の判決が、一九八二年一〇月言い渡されたが、横田基地公害訴訟判決、大阪空港公害訴訟最高裁判決と同様、損害賠償は認めたものの、夜間飛行の差し止め請求は却下した。

一、原発反対闘争では、総評などにより、一九八二年一〇月、闘争の位置づけや当面の方針が決定された。平戸第二核燃料再処理工場設置反対闘争では、長崎県平戸市において、工場反対の運動が急速に盛り上がり、工場設置計画は白紙撤回となった。また、伊方原発増設では公開ヒアリング阻止闘争が展開された。

日本労働年鑑 第54集 1984年版

発行 1983年11月30日

編著 法政大学大原社会問題研究所

発行所 ●

2001年8月28日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1984年版(第54集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---